

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Broadway Ave. & W 72th St.)

## 《セキセイウン●》

今回はニューヨークに住み始めた頃の食べ物の話…。

1993年3月31日、ニューヨークのJFK空港に降り立った時の所持金は約3,500ドル。その数日後に、マンハッタンのアパートの契約の際のデポジットや1ヶ月分の家賃(当時の金額で303ドル)の支払いと、布団類やトイレット・ペーパーなど、最低限の生活必需品を揃えたりして約800ドルの出費。そのまた数日後には、中古のウッドベースを税込み1,732ドルで購入。憧れのニューヨークに住み始めて一週間ほどで、残りの所持金は早くも約1,000ドルに…。

渡米後、最初の1ヶ月だけミッドタウンにあった英語学校に通ったが、そこで出会った様々な国の友達との食事やパーティー、飲み代と日に日に減り続ける所持金。「ヤバイ、ヤバイ」と思いながらも、その間に新聞(Village Voiceなど)や雑誌でライヴ情報をチェックしては、「この機会を逃したら一生見ることができないかもしれない」なんて真剣に考えながら、ジャズは勿論、憧れのミュージシャンたちのライヴに足繁く通う日々。その他にもろもろ出費がかさみ、憧れのニューヨーク生活開始から1ヶ月後には、所持金も100ドルを切った。

その間も、これからずっとニューヨークで生活していくため、地図を片手に自分に出来得るウェイターなどの求人広告を探しながらマンハッタンの街中を歩き回るも、そうそう簡単に雇ってくれる店もなく、日本から持って来ていたカップ麺やレトルト食品などの食材も完全に底を突き、節約できることといえば毎日の食事代くらいだった。

よく食べたのはベーグル、ピザ、クラッカー、屋台で買うブリッツェル、安くて量が多いテイクアウトのチャイニーズ・フード、ウエスト72丁目にあった有名な「グレイズ・パパイヤ」のホットドッグなどだが、今でも忘れられないのがミルクをかけて食べるシリアルのこと…。

小さい頃から大好きだったこともあり、近所のアッパーウエストのスーパーマーケットで仕入れた赤青黄色緑ピンク紫などカラフルな原色に彩られたシリアルにミルクをたっぷりかけて、朝・昼、時々クラッカーなどを交えながら晩にも食べる日が3~4日続くことがあった。

そんなある日の朝、用を足し(大きな方)に共同トイレに入って、雑誌を読みふけりながら便座に腰を掛けること約10分…。次の瞬間、驚きの光景が目に入った！

スッキリとした爽快感と共に股の間から便器の中をチラッと覗いた瞬間、まるでセキセイインコを思わせる綺麗なライト・グリーンに物体が視界に飛び込んできた…。

一瞬戸惑いながらも、そのあまりにも美しい色彩感に見とれてしまうのも束の間、直ぐに自分の便だと察知し、かなりビビった。とっさに感じたのは、「何かヤバイ」という焦り…。とりあえず、落ち着いて頭を整理すること数秒。

昨夜食べたものから数日間遊んでも、原因はカラフルなシリアルしか思い当たらない。「しかし、何でライト・グリーンなんだ？」なんて真剣に考えてみたものの、要はあの合成着色料をばっちり含んだカラフルな色彩が自分の胃袋と腸を通る過程で混ざり合って、結果的にライト・グリーンになったというだけの話…。

とりあえず、体に悪いということだけは即察知し、その日からカラフルなシリアルは暫く止めた。「しかし、見事なまでのライト・グリーンだったなあ…」と、今でも時々あの若かりし頃をしみじみと思い出す。

そんなこんなで楽しく充実した毎日を送りつつ、食事に関しては切り詰めながら、「絶対に日本には帰るまい！」という強い信念と「まあ、何とかなるだろう」という開き直りが功を奏したのか、所持金約30ドルになった時点で、漸くウェイターの仕事が見つかり何とか命拾い…。その後、丸4年間お世話になったレストラン店には今でも頭が上がらない。